

2016 年 5 月 27 日

Wireless Glue Networks, Inc.の株式譲渡について

株式会社産業革新機構（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：勝又幹英、以下「INCJ」）は、保有する Wireless Glue Networks, Inc.（本社：アメリカ合衆国カリフォルニア州ダンビル市、Co-founder and CEO：ピーター・マッケープ/Peter McCabe、以下「WGN」）の全株式について、Synaptica Networks, Inc.へ譲渡することを決定しましたのでお知らせ致します。

INCJ は、2013 年 2 月、東光電気株式会社（現・株式会社東光高岳）及び米国ベンチャーキャピタル Clean Pacific Ventures Management LLC. 等と共に、電力デマンドレスポンスに関する海外規格 OpenADR に準拠した技術ノウハウの日本国内における普及を目的として、米国シリコンバレーのベンチャー企業であり、スマートグリッドに関して米国電力会社へのコンサルティングや技術開発の実績および関連特許を保有する WGN への出資を決定し、支援を行ってきました。

これまで、WGN は早稲田大学やその他事業者が参加した ADR 実証実験などにおいて、OpenADR に準拠した技術ノウハウの提供や普及活動を継続的に実施してきました。その後、IoT プラットフォーム向けソフトウェア事業へ事業領域を拡大し、展開してきましたが、今後は WGN 共同創業者であるマッケープ CEO が IoT プラットフォーム事業専門会社として新たに設立する Synaptica Networks, Inc.に WGN を吸収合併することになりました。

（参考）INCJ は、2013 年 2 月 21 日に「東光電気株式会社及び米国ベンチャーキャピタルと共に、米国シリコンバレーのソフトウェア開発ベンチャーWireless Glue Networks Inc.への出資を決定」を公表しています。

URL：<http://www.incj.co.jp/PDF/1417689878.01.pdf>

Wireless Glue Networks, Inc.について

設立	2006 年 10 月
事業内容	OpenADR 対応の電力デマンドレスポンスを管理するソフトウェアおよび IoT 向けネットワーク接続制御ソフトウェアの開発と販売
所在地	アメリカ合衆国カリフォルニア州ダンビル市
代表者	Co-founder and CEO ピーター・マッケープ（Peter McCabe）

株式会社産業革新機構（INCJ）について

INCJ は、2009 年 7 月にオープンイノベーションの推進を通じた次世代産業の育成を目指して、法律に基づき設立された会社です。総額約 2 兆円の投資能力を有しており、革新性を有する事業に対し出資等を行うことで産業革新を支援することをミッションとしています。

INCJ は、投資・技術・経営等で多様な経験をもつ民間人材によって運営されており、法令に基づき、当社内に設置している産業革新委員会にて、政府の定める支援基準に従って投資の可否の判断を行い、日本の産業革新に資する投資を実施いたします。

株式会社 産業革新機構 企画調整 Gr. 広報 入江、坂井
東京都千代田区丸の内 1－4－1 丸の内永楽ビルディング 21 階
電 話：03－5218－7202

[別紙]

1. 対象事業会社

Wireless Glue Networks, Inc.

- ・設 立 : 2006 年 10 月
- ・代表者 : Peter McCabe
- ・所在地 : アメリカ合衆国カリフォルニア州ダンビル市
- ・事業内容 : Open ADR 対応の電力デマンドレスポンスを管理するソフトウェアおよび IoT 向けネットワーク接続制御ソフトウェアの開発と販売

2. 支援決定概要

- ・支援決定金額 : 4.5 百万米ドル(上限)
- ・実投資額: 非公表
- ・共同投資家: 東光電気株式会社、Clean Pacific Ventures Management
- ・株式保有割合: 非公表
- ・支援決定公表日: 2012 年 5 月
<https://www.incj.co.jp/news/assets/1417689878.01.pdf>
- ・投資ストラクチャー図:
<https://www.incj.co.jp/performance/upload/docs/1417689878.02.pdf>

3. 経緯

(1) 出資の経緯

各国で取り組みが進められているスマートグリッドについて、我が国においても東日本大震災を契機に取り組みが加速していました。

なかでも電力会社の設備投資を抑制するために需要家サイドにおけるピーク需要の抑制を促すデマンドレスポンス(以下「DR」)技術やコスト削減のためのエネルギー管理システム(以下「EMS」)のさらなる普及が求められていました。

このような背景のもと、INCJ は 2013 年 2 月、東光電気株式会社及び米国ベンチャーキャピタルの Clean Pacific Ventures Management LLC.等と共同で、米国シリコンバレーのベンチャー企業である Wireless Glue Networks 社への出資を決定しました。INCJ は 4.5 百万米ドルの出資を実行し、海外標準規格である OpenADR 対応技術を日本国内企業へ提供することや、国内機器メーカーと組んで DR 機器を海外展開することを企図しました。

(2) 事業の進捗

DR 技術で先行する米国にて、当該分野において知見と実績のある人材を有する WGN 社が開発した OpenADR 対応ソフトウェアを基に、国内メーカー等と ADR 連携実証実験が進められま

したが、電力自由化開始の動きを背景に、関連各社の DR 機能導入検討のスピードが鈍化するなど、市場環境が期待したほど進展しませんでした。そこで、WGN 社は、引き続き国内企業への OpenADR 規格に準拠した DR ソフトウェアのライセンス提供は継続するものの、事業のドメインを DR ソフトウェアの資産を活用した IoT 用技術ソフトウェア商品の開発に移行するなどの戦略転換を図りました。

(3)Exit の経緯・内容

その後、WGN 共同創業者であるマツケーブ CEO が IoT プラットフォーム事業専門会社として新たに設立する Synaptica Networks, Inc.に WGN を吸収合併することとなり、INCJ は 2016 年 5 月、保有する WGN の全株式を同社へ譲渡することとなりました。

4. 主務大臣(経済産業大臣)の意見

今後の海外経営資源の活用に当たっては、本案件の課題を分析した上で、引き続き支援を図られたい。